

DRF/Share-Hyogo 機関リポジトリ事例報告

2009/12/17
鳥取大学附属図書館
金子尚登

1

今日の内容

- 立ち上げまで
- 立ち上げ時
- 運用開始後
- 今後の展望
- 雑感

2

鳥取大学研究成果リポジトリ

<http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/Repository/Index.e>



3

立ち上げまでの毀誉褒貶1

- 学内での位置づけと合意形成
→大学の事業(実務は図書館)。持続可能な事業
- 予算
→CSIIに応募したが...
学内で予算確保。
- 情報収集
→ポータル研修/地域ワークショップ
DRF-Wiki、メーリングリスト

4

立ち上げまでの毀誉褒貶2

- 設置要項、仕様策定
→委員会、WG
- ピンチの時に天の声が...
- 各学部長および教授会で説明

5

立ち上げ時1

- 導入業者決定。
- システムはD-spaceでもE-printでもXoonipsでもない。おおむね満足。
- サーバは既存のもの(メディアセンターに設置)を利用(仮想サーバ)。
- デザイン、フィールド構成、その他機能

6

立ち上げ時2

- 2008年11月システム納入。
- メタデータ、本文ファイル、登録承諾書がそろったものから登録開始。
- メタデータ: 過去、Cinii用に作成していたデータを流用。
- 本文ファイル: 電子化済の紀要から。
- 登録許諾: 学部・編集委員会など一括で取れるところから。

7

現在1

- 2009年3月正式公開。
- 2009年度はCSIでお金もらえた！ 他も…。
- 電子化経費や、登録作業人員の雇用

8

現在2

- 紀要と学位論文が中心
 1. 電子化済/刊行中分(学部)
 2. 新規電子化分(個人-学内者、名誉教授、学位取得者)
 3. 新規電子化分(個人-退職者、過去の学位取得者)

9

今後の展望

- 紀要、学位論文は終わりが見えてきたので、学術雑誌に手をつける。
→どう攻めるか思案中。
- 作業のルーティンワーク化(担当者が変わっても大丈夫なように)。
- 遺跡資料リポジトリとの両立。
<http://rarcom.lib.shimane-u.ac.jp/>
- 共同リポジトリは…。

10

雑感1

- ゆるキャラも愛称も作らず。
(自分、不器用ですから)
- 反応はいろいろ。味方は大事。
- 新たな接点ができる。
「こっちの方がいい論文だからこっちを登録してよ」
- とにかく相手の負担を少なくした。承諾書に判を押すだけの状態。
(良いか悪いかは…)

11

雑感2

- 登録するとGoogleで上位にくる。
- 「これが正解のやり方」はたぶん…ない。
- 紀要電子化だけでもうれしい人はいる。
特に看護系！
- 日々、「これ、どうしよう」の連続。

12